

## 【サテライトオフィスは、 農山漁村に人と仕事と活気を呼ぶ】

徳島県美波町政策推進課 主査 鍛治淳也氏



平成31年3月7日（木）第7回農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナーは【サテライトオフィスは、農山漁村に人と仕事と活気を呼ぶ】【講師】徳島県美波町政策推進課 主査 鍛治 淳也 氏を開催しました。

人口7000名弱の過疎地域、美波町は「美波ふるさと創造戦略」を2012年に策定し、サテライトオフィスの誘致、門前町の復興等を核とした地方創生に取り組みを推進することにしました。

2017年時点の企業誘致は徳島県最多の17社、移住者は70名以上になっています。誘致が成功している大きな理由は、地元のイベント「日和佐八幡神社秋祭り」。徳島県内がテレビの地上波デジタル化で難視聴区域となることから、光ファイバーによる高速通信インターネット網が整備されていることも要因ですが、美波町は、太平洋の大海原と山の自然、澄み切った川などの大自然にかこまれ、四国霊場23番札所である薬王寺に参拝するお遍路

さんで門前町は賑わい、室戸阿南海岸国指定公園でもある大浜海岸では夏になるとアカウミガメが産卵、また 県南部はサーフィンやダイビングなどマリンスポーツも盛んと、地域の人柄豊かな自然にふれて移住を決意する人も少なくないのです。

秋には八幡神社で大きな秋祭りがあり、祭りをとおして地元の人との交流も盛んで、過疎地でも可能な企業誘致・若者誘致として期待も高く、豊かな自然と地域の人々の人柄が資源となって、次の世代を担う若者の働く場、生活の場として、中山間地域の生き残りを町ぐるみで展開しています。セミナーのさわりを紹介します。

新時代の田舎暮らし、農山漁村の魅力は仕事も生き方も変える???今回は、農山漁村への移住促進を担う市町村の取り組みをテーマにしました。

2019年4月に俳優の関口知宏（鉄道の旅で有名な）さんが映画初主演を飾った人間ドラマ。東京から故郷の徳島にオフィス移転を行ったIT企業社長の実話をもとにした映画「波乗りオフィスへようこそ」が劇場公開されます。この実話の舞台でありロケ地の美波町の移住が地方創生のモデルとして高く評価されています。

それはなぜなのか??? 半農×半Xというように、2つの仕事をもつ暮らし方が田舎暮らしに合っているとされていますが、美波町は、半IT×半X。ITの企業誘致でネット関係の仕事しながら、半分は地域活動などをとサテライトオフィス事業が効果を上げています。

徳島県美波町は人口7000名弱の過疎地域です。「美波ふるさと創造戦略」を2012年に策定し、サテライトオフィスの誘致、門前町の復興等を核とした地方創生に取り組みを推進することにしました。



美波町を取り巻くこれからの社会 FUTURE

今までの取り組みが映画化へ

波乗りオフィスへようこそ 4月19日（金）東京より全国順次ロードショー



4月19日（金）より全国順次ロードショー 特別鑑賞券販売中! ¥1,400 (税込) 注目! 一律¥1,800 (税込) オリジナル手ぬぐい付 (数量限定)

4月5日（日）先行公開! イオンシネマ 徳島 有楽町スバルビル

平成31年3月7日（木）第7回農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー開催結果

## 働き方改革の最前線！日本の課題を解決する企業が中山間から商品化する時代に

サテライトオフィスによる農山漁村活性化の取り組みは、新しい形の企業誘致、仕事の移業として、一歩も二歩も先行く展開です。

単なるITやデザイン企業の誘致かと思いきや、次々と生み出される技術を活用し世の中の課題を解決する商品を作ろうとする企業など、下町ロケットのような新しいアイデアや商品が生み出されようとしています。

3月に1社。4月にも1社が美波町に移住します。

しかし移住することよりもそこから離住しないようにすることの方が大事だとか。

移住企業も社員が離職しないために、美波町の美しい海と伝統的な祭りを中心とした地域の人々との心の交流が都会では得られない人間的な暮らしを得られると地域に積極的に溶け込んでいます。

地域との相性を考え仲人のように活動している担当者の話は大変含蓄がありました。



美波町サテライトオフィス誘致プロジェクト  
MINAMI SATELLITE OFFICE INVITATION PROJECT



### サテライトオフィスのメリット MERIT

## にぎやかな過疎の町

多種メディア取材による町の宣伝機会の増大

今までの地方にない新しいスキルを持った移住者の増加

既存の観光行政外での交流人口（関係人口）の増加

既存住民の町の見方の変化、町への愛着、自信の復活

公共遊休施設、空き家活用の増加

住民との交流による秋祭り等、文化活動の賑わいの創出

飲食店の売り上げの増大・飲食店の新規開店





サテライトオフィスの種類  
TYPE

事例 空き家活用 明治時代の古民家改修



サテライトオフィスの種類  
TYPE

事例 地域の賑わいの創出 地域住民との交流





サテライトオフィスの種類  
TYPE

事例 地域の賑わいの創出

地域住民との関係



### 「にぎやかそ」

地方創生の目指す成果は、人口減少が進む農山漁村に都会から若者の移住定住を促進であるが、その具体策として、サテライトオフィスが注目されている。

仕事を都市から移す「移業」と呼んでいるのは、**明治大学の小田切徳美 教授**。

小田切教授の「にぎやかな過疎」をつくる―農山漁村の地方創生―（2019年1月7日）の論説が全国町村会機関誌『町村週報』のWEBサイトで紹介されている。

<http://www.zck.or.jp/site/column-article/16740.html>

小田切先生は、徳島県美波町のまちづくりのキャッチフレーズを「“にぎやかそ” にぎやかな過疎の町 美波町」と定め、2018年12月1日に「にぎやかな過疎宣言」したことを取り上げ、サテライトオフィスが仕事を生み、それを支援する会社も設立され、さらに移住した若者が祭りをはじめとする各種の地域活動に参加や複数の飲食店の新規開業も生じているという。また、福島県三島町、愛知県東栄町、鳥取県智頭町、山口県阿武町、同県周防大島町なども移住による新たな変化出ているとし、このような地域を田園回帰の「ホットスポット」、「人が人を呼ぶ」とし、起業が別のしごとを生み出すような関係も出現して、「にぎやかさ」を実感できる場となり始めていると述べている。

**徳島県美波町の魅力を発信するため まちづくりのキャッチフレーズ「にぎやかそ」を策定**  
高齢化率が45%を超す美波町では、今後も人口減少局面が続くことが予想されています。こうした厳しい現実に向かってしっかりと向き合いながら、人口減少が進む過疎の町であっても、内外から人が集い、開業や起業が相次ぐにぎやかな町を、このキャッチフレーズとロゴのもと、関係者一丸となって目指すことを宣言いたします。

## 人口減少下でもにぎやかな町であるために まちづくりキャッチフレーズを策定

徳島県美波町（町長 影治信良）は、人口減少や過疎化が進もうとも、活気あふれるにぎやかな町であり続けることを目指し、まちづくりのキャッチフレーズを「“にぎやかそ” にぎやかな過疎の町 美波町」と決めました。

### 【背景と目的】

徳島県美波町は、少子高齢化や人口流出による深刻な過疎化への対策として、平成27年に地方創生総合戦略「美波ふるさと創造戦略 ～共創によるまちづくり～」を定め、美波町らしさを活かした地域振興策を進めてまいりました。

都市部のベンチャー企業等を誘致するサテライトオフィス誘致政策や、学童の多拠点就学を可能とするデュアルスクール制度を日本で初めて実現するなど、先駆的な取り組みを進めた結果、徳島県内最多となるサテライトオフィス企業の進出・集積（平成30年11月末時点）や、若者移住者の増加、また、古民家を活用した飲食店などのサービス業が次々と開業するなど、町には変化が生まれ、あらたな“にぎわい”が生まれつつあります。こうしたにぎやかな過疎地の姿は、地方創生や若者の新たな生き方を描いた、映画「波乗りオフィスへようこそ」のモデルと舞台となるなど、人口減少の続く過疎地でも可能な地域振興モデルとして全国からも注目を集めています。

こうした流れをさらに拓げるべく、美波町が目指すまちづくりのあり方を、町内外に明確に伝えるキャッチフレーズ「“にぎやかそ” にぎやかな過疎の町 美波町」をこのたび策定いたしました。

高齢化率が45%を超過する美波町では、今後も人口減少局面が続くことが予想されています。こうした厳しい現実に向かってしっかりと向き合いながら、人口減少が進む過疎の町であっても、内外から人が集い、開業や起業が相次ぐにぎやかな町を、このキャッチフレーズとロゴのもと、関係者一丸となって目指すことを宣言いたします。

### 【明治大学農学部教授 小田切徳美様のエンドースメントコメント】

美波町には、サテライトオフィスや飲食店の開業等の新しい動きが連鎖して起こり、「過疎地域にもかかわらず、にぎやか」という状況が生まれつつある。その本質は「人口減・人材増」だろう。これは地方創生の目標であり、国全体として人口減少が進む日本社会のあるべき姿でもある。

小田切徳美 明治大学農学部教授、ふるさとづくり有識者会議座長（内閣官房）、国土審議会委員（国交省）、過疎問題懇談会委員（総務省）、農山漁村のあり方検討会座長（全国町村会）

(ロゴ)



にぎやかな  
過疎の町

美波町

#### 美波町について

町長	影治 信良 (かげじのぶよし)
人口	6,789人 (平成30年10月末時点)
高齢化率	46.2% (平成30年10月末時点)
地方創生関連トピックス	<ul style="list-style-type: none"><li>● 県内最多となる17社のサテライトオフィス進出 (平成30年11月末時点)</li><li>● 2拠点就学/他拠点就学を可能とする「デュアルスクール」を日本ではじめて実施</li><li>● 平成26年に半世紀ぶりとなる社会人口増を実現</li><li>● 経済産業省「地方版IoT推進ラボ」認定自治体 (平成29年8月認定)</li><li>● プラチナ大賞 ライフデザイン賞受賞 (平成30年10月25日)</li><li>● 地方創生映画「波乗りオフィスへようこそ」(平成31年4月公開予定)のモデル・舞台地となる</li></ul>

#### <お問い合わせ先>

美波ふるさと創造広報チーム事務局 (担当: 株式会社あわえ 彌野 (やの))

Tel: 0884-70-5831 Mail: [info@awae.co.jp](mailto:info@awae.co.jp)

美波町政策推進課 (担当: 川西 (かわにし)) Tel: 0884-77-3616